

2022年トライアスロン大会での新型コロナウイルス感染防止ガイドライン (2022/05/29)

日本トライアスロン連合 (JTU)

1. 基本事項

- ・日本国政府、大会開催地自治体、競技団体（ワールドトライアスロン、日本トライアスロン連合 (JTU)）の感染対策防止方針を踏まえ、各大会関係団体（開催自治体、大会主催者、開催地競技団体）と協議のうえ大会毎のガイドラインを決定する
- ・トライアスロン大会における感染対策として下記項目の実施検討を行う

国際トライアスロン連合 (World Triathlon)

https://education.competitions.org/pluginfile.php/16926/mod_page/content/83/20211030_Covid19_Guidelines%206.0%20v1.pdf

日本トライアスロン連合 (JTU) <https://www.jtu.or.jp/hjueewohu83kjd/>

2. 基本的感染予防対策の徹底

- ・競技以外の場面でのマスクの着用
- ・会場での手指消毒の実施
- ・『密』の回避（ソーシャルディスタンスの確保など）

3. 来場について

来場する全ての関係者（参加選手、大会運営関係者など）において次の場合は来場を控えていただく

- ・来場予定日から7日以内（来場予定日を0日とする）に濃厚接触者になった場合
- ・来場予定日から3日以内（来場予定日を0日とする）に1日でも体温37.5℃以上がある場合
- ・来場予定日から3日以内（来場予定日を0日とする）に下記の症状がある場合
咳または痰がある、喉に痛みがある／息苦しさがある／強いだるさを感じる／嗅覚や味覚に異常を感じる

また、学生選手においては次の事項に関しても考慮し参加する

- ・原則、所属する学校（中学・高校・大学）の課外活動方針に従うこと
- ・また、出場前に学校長への報告、承認を得ることを推奨

4. 来場前の健康行動チェックの実施

- ・来場する全ての関係者（参加選手、大会運営関係者など）へ来場前7日間の健康行動チェックを実施
- ・来場予定日から3日以内（来場予定日を0日とする）に発熱や濃厚接触疑いなどが判明した場合（※）は、原則として来場を控えていただく
- ・健康状態確認は、Webシステム導入も検討

※：濃厚接触疑い発生時は、都度審議を行う。

5. 検査について

- ・基本的に、出場選手および関係者に対して検査（PCR・抗原など）の実施は求めない（来場前の健康行動チェックにて対応）
- ・ただし、大会前の感染拡大状況や開催自治体（国際大会に関してはワールドトライアスロン）からの要請がある場合は、検査方法や対象者を含め検査実施を検討する
- ・尚、検査実施の際は自己負担を基本とする

6. 観戦者の来場

観戦者や同行者の受け入れ可否については、国内や開催地の感染拡大状況、大会開催地の対策方針によって決定する

観戦者を受け入れる場合は、

- ・基本的予防対策（上記2）の徹底
- ・スタートエリアやフィニッシュエリアなど『密』な状態が予想されるエリアは入場制限も検討する
- ・応援活動に関しては、大声での応援は控えていただく（応援は拍手などで）

7. 競技説明会

- ・密接、密集を避けるためオンラインでの競技説明会の実施を検討する
- ・ただし、感染対策を施すことができる場合は、現地での競技説明会も可とする

エイジ大会においては、次の方法での実施も検討する

- ・密接、密集を避けるため事前に競技説明会動画のWEB公開
- ・競技説明会内容の理解度確認テスト

8. 選手受付

- ・同一時間帯に集中しないよう、レースナンバーによって来場時間を指定する
- ・WEB受付なども検討

9. 選手配布物

- ・選手受付時に配布を行う
- ・レースナンバー、ボディナンバーシール、記念Tシャツ、スイムキャップ、その他必要な書類等は、事前郵送対応も検討する
- ・現地で配布対応を行う場合は、レースナンバー毎に時間枠を設けるなど時間帯が集中しないよう行う

10. セレモニー関連：開会式・閉会式・表彰式・パーティー

- ・セレモニーを実施する場合は、屋外や換気のよい場所、マスクの着用など基本的感染対策を徹底し実施する
- ・また、短時間でコンパクトに行うことを検討
- ・飲食の伴う大人数でのパーティーは、原則自粛

11. スタートでの対応

- ・スタート前の待機中は、マスク着用、対人距離1mの確保を行う
ただし無言で待機できるのであれば、マスク無しも許容される
- ・エイジ大会でのスタート方式については、スタートエリアの環境も考慮し、ウェーブスタート（*1）やローリングスタート（*2）を検討する

*1 ウェーブスタート

- ・ウェーブの人数については、大人数になりすぎないように調整を行う

*2 ローリングスタート

- ・数名～10名程度ずつ、数秒～10秒程度ごとにスタートする方式
- ・スタート後のバトルやスイム中の接近、接触の回数を減らすことも目的とする
- ・また、バイク・ランコースでの混雑を避ける効果が期待できる
- ・一方、スタートまでに待機列が長くなりやすいので待機中の対人距離1m確保を行う

12. エイドステーションでの対応

- ・エイドステーションスタッフと参加選手との接触を避けるため、セルフ方式を検討
- ・コップの廃棄は用意したゴミ箱に選手自身が入れるよう案内する

13. トランジションエリアでの対応

- ・早くフィニッシュした選手が速やかに自転車を引き取って帰路につけるよう、トランジションエリアを早期解放できるように検討する

14. フィニッシュエリアでの対応

- ・フィニッシュエリアは、密にならないよう十分なスペースの確保を行う
- ・フィニッシュ後は、選手へマスクの着用を喚起し、速やかに移動できるよう案内する
- ・エイジ大会での同伴フィニッシュについては、同伴者へ基本的感染予防対策（上記2）を施していた
だくことを前提に実施も検討可能

15. 会場での結果速報について

- ・会場内での掲示は、密集発生の一因となるのでWEB配信や後日ホームページでの掲載などを検討する

16. **接触確認アプリの導入**

- ・感染拡大防止を目的として開発された厚生労働省（COCOA）や各自治体で展開している接触確認アプリの活用を検討する

17. **大会後 7 日間以内に陽性者となった場合**

- ・参加者が大会後 7 日間以内に新型コロナウイルスに罹患した場合は大会側に連絡を行う

18. **大会後の立ち寄りについて**

- ・大会後はできる限り速やかに帰宅いただくよう案内する

本件に関するお問合せ

JTU イベントチーム（担当：小池） event@jtu.or.jp